

JP1 腕試しテスト（統合管理）

JP1 腕試しテストは、JP1 統合管理製品を利用されている方向けに JP1 の基礎知識をご確認いただくためにご提供しています。

また、株式会社アシスト（以下、弊社）が提供している JP1 統合管理研修受講後の復習用としてもご利用いただけます。

なお、ご利用にあたっては以下をご確認ください。

- ・弊社の許可なく本資料の改変、再配布することをご遠慮ください。
 - ・誤植等は早急に修正を行い改訂版を公開する予定ですが、ご利用は自己責任となります。
 - ・本資料の問題に関するお問い合わせはご遠慮ください。
- ※弊社 JP1 研修受講者は、受講後 3ヶ月間のアフターサポートサービスをご利用下さい。

解答用紙

問題番号	解答	問題番号	解答
問 1		問 16	
問 2		問 17	
問 3		問 18	
問 4		問 19	
問 5		問 20	
問 6		問 21	
問 7		問 22	
問 8		問 23	
問 9		問 24	
問 10		問 25	
問 11		問 26	
問 12		問 27	
問 13		問 28	
問 14		問 29	
問 15		問 30	

得点 / 30問

メモ欄

JP1 統合管理コース 腕試しテスト

問題

問1.

JP1 統合管理製品(JP1/IM-Manager, JP1/Base)で実現できることとして、誤った記述を選択してください。

- ① JP1 イベントをログ形式で監視できる。
- ② ビジュアル監視画面では、サーバの物理的な配置を自動的にマップにできる。
- ③ オペレーターが監視したいJP1 イベントだけを、検索して表示できる。
- ④ あらかじめJP1 イベントとアクションの紐付けを行っておき、JP1 イベント発生タイミングで自動的にアクションを実行できる。

問2.

JP1 統合管理製品に関する説明で、誤った記述を選択してください。

- ① JP1/IM-Managerは、JP1 プログラムやアプリケーションログファイルなどを一元管理できる。
- ② JP1/IM-TELstaffは、異常発生時にメール通知やパトランプ点灯などのアクションが実行できる。
- ③ JP1/Baseで管理しているJP1 イベントを管理する場合は、必ずJP1/IM-Managerの統合監視DBを使用する必要がある。
- ④ JP1/IM-Service Supportは、インシデントを管理し、作業手順の標準化ができる。

問3.

統合管理を行う上で、セントラルコンソール画面に表示されるメッセージをわかりやすく変換する機能を提供している製品名として、正しいものを選択してください。

- ① JP1/Integrated Management - Navigation Platform
- ② JP1/Integrated Management - Message Optimizer
- ③ JP1/Integrated Management - Service Support
- ④ JP1/Integrated Management - Event Gateway for Network Node Manager i

問4.

JP1/IM-Managerの機能に関する説明で、誤った記述を選択してください。

- ① セントラルコンソールは、システム全体のイベントをログ形式の画面で集中監視できる。イベントをフィルターにかけて絞り込むこともできるので、必要なイベントだけを監視することができる。
- ② 自動アクションは、問題発生時のメール通知や、パトランプの点灯などのアクションを自動実行できる。
- ③ セントラルスコープは、監視目的に合わせて、ツリー形式やアイコン形式でJP1 イベントを監視できる。大規模、複雑なシステムにおいて、管理目的に合わせた監視ができる。
- ④ ビジュアル監視画面は、管理対象のJP1 イベントをグループ分けし、アイコン形式で表示できる。システム内容が変更となった場合にも、自動的にメンテナンスが行われる。

JP1統合管理コース 腕試しテスト

問5.

イベントコンソール画面の表示項目に関する説明で、誤った記述を選択してください。

- ① 登録時刻:発生したJP1イベントがイベントDBに登録された時刻。
- ② 到着時刻:JP1イベントがイベント転送機能によって上位サーバに転送され、イベントDBに登録された時刻。
- ③ イベントID:発生した事象に付与されたJP1独自形式の8桁のID。
- ④ 登録ホスト名:事象が発生したサーバのホスト名。上位サーバに転送されても変更されない。

問6.

JP1イベントの重大度(8段階)を、緊急度の高いものから並べた場合、正しい記述を選択してください。

- ① 緊急 > 致命的 > 警戒 > エラー > 警告 > 通知 > 情報 > デバッグ
- ② 致命的 > 緊急 > 警戒 > エラー > 警告 > 通知 > 情報 > デバッグ
- ③ 緊急 > 警戒 > 致命的 > エラー > 警告 > 情報 > 通知 > デバッグ
- ④ 緊急 > 警戒 > 致命的 > エラー > 警告 > 通知 > 情報 > デバッグ

問7.

空欄aとbの組み合わせとして、最も適切な記述を選択してください。

ユーザー環境設定画面では、【a】の有無を指定できる。
また短時間に大量のイベントが発生する場合は【b】の設定も検討する必要がある。

- ① a:表示内容の自動更新、b:検索時のイベント取得件数
- ② a:表示内容の自動更新、b:更新時のイベント取得件数
- ③ a:イベント取得間隔、b:スクロールバッファ
- ④ a:イベント取得間隔、b:更新時のイベント取得件数

問8.

「ユーザー環境設定」画面の「集約表示」の説明として正しいものを選択してください。

- ① 集約表示するJP1イベントの属性を正規表現で指定できるため、部分一致したメッセージでも集約して表示できる。
- ② 連続したJP1イベントでなくても、指定した時間内であれば条件に一致したJP1イベントは集約される。
- ③ 「繰り返しイベントの監視抑止」機能を有効にした場合、「集約表示」は使用できない。
- ④ 集約表示するJP1イベントの数に上限はない。

JP1統合管理コース 腕試しテスト

問9.

「繰り返しイベントの監視抑止」機能の説明として、誤った記述を選択してください。

- ① 繰り返しイベント条件のしきい値を「5件/30秒」と設定した場合、条件に一致するJP1イベントが30秒以内に5件以上発生すると集約を開始する。
- ② 繰り返しイベント条件のしきい値を「5件/30秒」と設定した場合、条件に一致するJP1イベントが30秒以内に5件以下になると集約を終了する。
- ③ 繰り返しイベントの表示抑止を開始する時に、抑止開始イベント(イベントID:00003F58)を発生させることができる。
- ④ イベントコンソール画面から抑止対象のJP1イベントを選択し、繰り返しイベント条件を簡単に追加することができる。

問10.

JP1イベントのフィルターのうち、イベントコンソール画面からは設定できないフィルターを選択してください。

- ① イベント取得フィルター
- ② イベント転送フィルター
- ③ ユーザーフィルター
- ④ 表示フィルター

問11.

1つのJP1/IM-Managerに定義できるユーザーフィルターの上限值として、正しい記述を選択してください。

- ① 50
- ② 100
- ③ 128
- ④ 256

問12.

自動アクションに関する説明で、誤った記述を選択してください。

- ① 自動アクションの実行契機となるJP1イベントは、イベントID以外の属性でも指定できる。
- ② 監視対象サーバで自動アクションが実行されている場合は、途中でアクションを止めることはできない。
- ③ 自動アクションの実行結果は、GUI画面で確認できる。
- ④ 自動アクションでは、マウス操作や対話処理が必要な処理を実行できない。

問13.

イベントコンソール画面の「イベント検索」タブでは、監視するイベントを検索して絞り込みます。イベント検索に関する説明で、誤った記述を選択してください。

- ① イベント検索は、JP1/IM-Managerが導入されたサーバだけでなく、下位サーバにて収集したJP1イベントも検索できる。
- ② イベント検索は、データベース内のJP1イベントの検索方向を「過去方向」あるいは「未来方向」から選択できる。
- ③ イベント検索の際、複数の条件群を指定できるが、条件群同士の関係はOR条件となる。
- ④ イベント検索は、データベースを検索し、条件に一致したすべてのJP1イベントを一度に画面に表示するため、表示に時間がかかることがある。

問14.

「イベント詳細」画面の「モニター起動」に関する説明で、誤った記述を選択してください。

- ① モニター起動で呼び出したアプリケーションでは、権限にしたがって操作や監視ができる。
- ② モニター起動は、WWWページ版のイベントコンソール画面からは呼び出すことができない。
- ③ モニター起動でJP1/AJS3を起動する際には、ログイン画面が表示されて、改めてJP1ユーザー認証を行う必要がある。
- ④ 起動セットアップがされていないか、該当するアプリケーションがない場合、モニター起動は使用できない。

問15.

「アクション設定」画面の「状態監視」について、正しい記述を選択してください。

- ① 「状態監視」はデフォルトで「する」になっているため、無効にするには「actdef.conf」を定義する。
- ② 「状態監視」はデフォルトで「しない」になっているため、有効にするには「する」に設定して「actdef.conf」を定義する。
- ③ 「状態監視」はデフォルトで「する」になっているため、無効にするには「actnotice.conf」を定義する。
- ④ 「状態監視」はデフォルトで「しない」になっているため、有効にするには「する」に設定して「actnotice.conf」を定義する。

問16.

監視端末に導入し、GUI監視するための製品として、正しいものを選択してください。

- ① JP1/Integrated Management - Console
- ② JP1/Integrated Management - View
- ③ JP1/Integrated Management - Base
- ④ JP1/Integrated Management - Monitor

JP1 統合管理コース 腕試しテスト

問17.

IMデータベースの説明で、誤った記述を選択してください。

- ① IMデータベースには、統合監視DB、IM構成管理DB、システムDB領域がある。
- ② IMデータベースはセットアップ時に、データベースの容量を小規模(S)、中規模(M)、大規模(L)から選択できる。
- ③ IM構成管理DBには、管理しているJP1イベントが保存されている。
- ④ IMデータベース構築時は、JP1/IM-Managerでセットアップが必要だが、JP1/Baseでのセットアップは必要ない。

問18.

JP1/Baseの通信抑止を設定すると、意図しないサーバからの操作を抑止できます。抑制設定の説明として誤った記述を選択してください。

- ① 構成定義に登録された上位サーバからのコマンド実行要求のみ受信する設定ができる。
- ② 構成定義の上位サーバからの構成変更要求のみを受信する設定ができる。
- ③ JP1_Console_Adminを保持するユーザーであれば、通信抑止設定の対象から除外され各操作の通信ができる。
- ④ 連携製品と通信する場合に任意のサーバからの通信のみを受信する。

問19.

構成定義に関するコマンドの説明で、誤った記述を選択してください。

- ① 「jbsrt_distrib」は、構成定義ファイルを最上位のサーバから、下位サーバへ配布する際に使用する。すでに構成定義が設定されている場合には、上書きされる。
- ② 「jbsrt_sync」は、下位ホストから構成定義情報を収集し、システム内の構成定義を更新する。
- ③ 「jbsrt_del」は、コマンドを実行したホストの構成定義情報をすべて削除する。最上位のマネージャサーバで実行した場合には、下位ホストの構成定義情報すべてが削除される。
- ④ 「jbsrt_get」は、コマンドを実行したホストの構成定義情報を、自ホストから見た「上位ホスト」「下位ホスト」という区分で確認できる。

問20.

構成定義を一括で行う場合のコマンドとして正しい記述を選択してください。

- ① JP1/IM-Managerが導入されているサーバで、「jbsrt_distrib」を実行し、引数にエージェントを指定する。
- ② JP1/IM-Managerが導入されているサーバで、jbs_route.confに構成定義情報を記述し、「jbsrt_distrib」を実行する。
- ③ JP1/IM-Managerが導入されたサーバと、JP1/Baseが導入された監視対象サーバの両方で「jbsrt_distrib」を実行する。
- ④ JP1/Baseが導入された監視対象サーバで、jbs_route.confに上位サーバを指定し、「jbsrt_distrib」を実行する。

問21.

以下のようなJP1イベントの転送設定がされている場合に、上位サーバに転送されないJP1イベントを選択してください。

```
to-upper
E.SEVERITY IN Warning Error
B.ID RANGE 1 1000
B.MESSAGE NOTIN TEST
end-to
```

- イベントID:1000
 - ① 重大度 :警告
 - メッセージ:SAMPLE-TEST
- イベントID:1
 - ② 重大度 :警告
 - メッセージ:SAMPLE-Information
- イベントID:1000
 - ③ 重大度 :エラー
 - メッセージ:SAMPLE-MESSAGE
- イベントID:1
 - ④ 重大度 :エラー
 - メッセージ:SAMPLE-test

問22.

リモート監視の説明で、誤った記述を選択してください。

- ① JP1/IM-Managerと監視対象サーバ(Windows)ではNetBIOS/WMIの設定が必要である。
- ② JP1/IM-Managerと監視対象サーバ(UNIX)ではSSHの設定が必要である。
- ③ JP1/IM-Managerと監視対象サーバ間でネットワーク断線などにより監視が停止した場合は、復旧後に監視対象サーバから停止中に発生したJP1イベントが転送される。
- ④ 監視対象サーバのホスト名などを変更した場合は、「ホスト属性編集」で変更できる。

問23.

ユーザー管理機能に関する説明で、誤った記述を選択してください。

- ① JP1ユーザー名(小文字限定)の作成やパスワードの設定ができる。
- ② JP1ユーザーとOSユーザーをマッピングするには、事前にJP1ユーザーと同一名のOSユーザーを作成する必要がある。
- ③ JP1資源グループ別権限レベルを設定すると、JP1ユーザーに操作権限を付与できる。
- ④ JP1ユーザーを作成していない場合は、Administrator権限を持つOSユーザーでもログインはできない。

問24.

ユーザーマッピングに関する説明で、誤った記述を選択してください。

- ① マッピングOSユーザーは、OS上に存在するOSユーザーしか指定できない。
- ② マッピング時の「JP1ユーザー名」に「*」を指定することで、全JP1ユーザーのマッピングができる。
- ③ Windows環境のみ、マッピングOSユーザーのパスワードを変更した場合には、JP1/Base環境設定画面で、パスワードを変更する必要がある。
- ④ JP1ユーザーには、複数のOSユーザーをマッピングできる。

JP1 統合管理コース 腕試しテスト

問25.

アプリケーションプログラムのログをJP1イベントに変換するログファイルトラップに関する説明で、誤った記述を選択してください。

- ① ログファイルの監視を行うには、アプリケーションのログファイルに出力された内容を、JP1イベントに変換することで、JP1/Baseで収集して、監視対象とすることができる。
- ② ログファイルの監視を行うには、あらかじめ動作定義ファイルを作成し、監視対象のログファイルの出力形式や、JP1イベントに変換する条件を定義しておく必要がある。
- ③ ログファイルの監視は、システム再起動した場合もデフォルトで監視が継続される。
- ④ ログファイルの監視で、アプリケーションのログファイルとして監視できるファイルは、シーケンシャル形式のファイル、ラップアラウンドするファイルなどがあり、デバイスファイルやネットワークファイル、バイナリデータを含むレコードがあるファイルは、監視できない。

問26.

アプリケーションプログラムのログファイルを監視する場合のコマンドの実行例として、正しい記述を選択してください。

・動作定義ファイル:C:¥temp¥jevlog.conf
・監視対象ログファイル:C:¥jp1¥sample.log C:¥ajs¥ajs.log
・監視間隔:5秒

- ① jevlogstart -t 5 -f C:¥jp1¥sample.log C:¥ajs¥ajs.log C:¥temp¥jevlog.conf
- ② jevlogstart -t 5 C:¥jp1¥sample.log -f C:¥ajs¥ajs.log C:¥temp¥jevlog.conf
- ③ jevlogstart -t 5 C:¥temp¥jevlog.conf -f C:¥jp1¥sample.log C:¥ajs¥ajs.log
- ④ jevlogstart -t 5 -f C:¥temp¥jevlog.conf C:¥jp1¥sample.log C:¥ajs¥ajs.log

問27.

JP1イベントを送信するコマンドとして、正しいものを選択してください。

- ① jpevsend
- ② jevsend
- ③ jpevent
- ④ jpeventsend

問28.

Windowsイベントログを監視する、イベントログトラップに関する説明で、誤った記述を選択してください。

- ① Windowsイベントログを監視するには、定義ファイル編集後、サービスを再起動すると定義内容が有効になる。
- ② Windowsイベントログを監視したJP1イベントのイベントIDは「3A71」となり、変更はできない。
- ③ Windowsイベントログの監視条件は、定義ファイル内で種別やカテゴリなどを指定することができる。
- ④ Windowsイベントログのデフォルトの監視条件は、発生したすべてのWindowsイベントログをJP1イベントに変換する。

問29.

相関イベント発行定義ファイル作成後に設定内容の整合性を確認するコマンド構文として、正しいものを選択してください。

- ① jcoegsstat -c 定義ファイル名
- ② jcoegscheck -f 定義ファイル名
- ③ jcoegsstat -f 定義ファイル名
- ④ jcoegscheck -c 定義ファイル名

問30.

ビジュアル監視画面に関する説明で、誤った記述を選択してください。

- ① ビジュアル監視画面は、監視ツリーに登録した監視ノードをアイコン形式で監視できる。
- ② ビジュアル監視画面の背景画像は自由に設定できる。
- ③ ビジュアル監視画面の定義内容は、画像ファイルとして保存できる。
- ④ ビジュアル監視画面は、複数作成することができる。

解答一覧

問題番号	解答	問題番号	解答
問 1	②	問 16	②
問 2	③	問 17	③
問 3	②	問 18	③
問 4	④	問 19	③
問 5	④	問 20	②
問 6	④	問 21	①
問 7	②	問 22	③
問 8	③	問 23	②
問 9	②	問 24	①
問 10	②	問 25	③
問 11	③	問 26	④
問 12	②	問 27	②
問 13	④	問 28	④
問 14	③	問 29	②
問 15	④	問 30	③

得点 / 30問

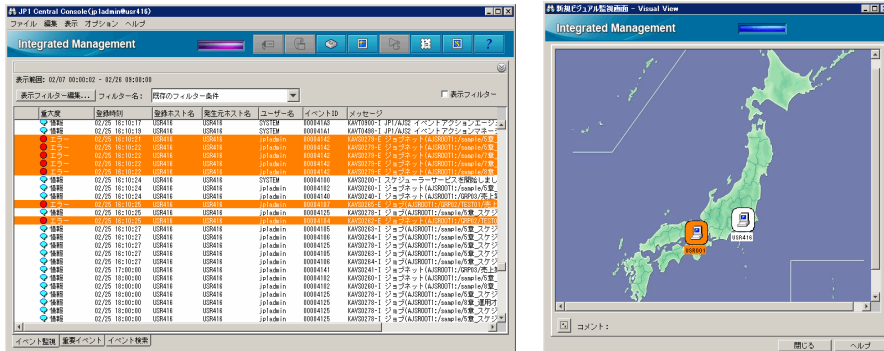
メモ欄

JP1腕試しテストの内容を含む、より応用的な使い方や注意点などを体系的にまとめた研修コースを定期開催しています。また、1社様向けの日数、会場、内容をカスタマイズするオンサイト研修もご提供いたします。

JP1 統合管理 (日数: 2日)

モニタリング

JP1でシステム統合管理を行う、JP1/IM、JP1/Baseの基本から設定・運用時のポイントまで網羅したコースです。初めてJP1製品を利用される方から、既に利用されている方まで体系的に知識や操作手順を習得していただけます。



研修では、左の図のようにOSやアプリケーションなどの状態を、JP1/IMの画面で一元的に集約/管理する方法をご説明いたします。また、右の図のように、より直感的な監視を行っていただくための、監視画面のカスタマイズ方法もご説明いたします。

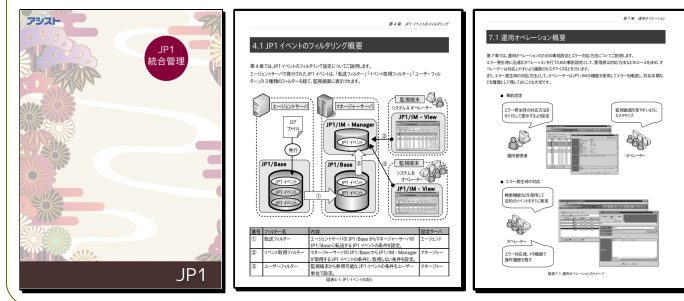
■受講対象者

- ・JP1統合管理製品を利用して統合管理システムの設計、構築、運用、オペレーションを担当される方。
- ・JP1/IM、JP1/Baseでの統合管理機能やポイントを体系的に習得されたい方。

■コース内容

- ・統合管理概要
- ・環境設定
- ・JP1イベントの発行
- ・JP1イベントのフィルタリング
- ・JP1イベントの監視
- ・アクションの実行
- ・運用オペレーション
- ・保守・メンテナンス

テキストイメージ



※受講者の声※

- ・具体的な実習が多く、システム構築を行う上で、大変参考になりました。
- ・操作が一通り身に付く構成で、短時間に修得でき良かったです。
- ・テキストの構成、内容が要点をおさえており、大切なところが明確で、大変参考になりました。

株式会社アシスト (URL: <http://www.ashisuto.co.jp/ojt/course/jp1/>)

発行元 **アシスト**

本資料で使用されるメーカー名、商品名は各社の商標または登録商標です。
当社の文書による許可無しに、本テキストの一部または全部を無断で転記または複製することはできません。
また、本資料に記載された内容については、予告なしに変更することがありますので、予めご了承ください。

JPMI-1406